

科目名	心の脳科学		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	池尻 義隆			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業	○	
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
[到達目標]				
1 こころの働きと脳の活動の関連を探る方法のひとつとして脳損傷時のこころの働きを観察する方法(神経心理学)があることを知り、その代表的知見を学ぶ。				
2 脳の構造や機能を調べる方法である各種の脳画像検査の原理を学び、特徴を説明することができる。				
3 こころの働きの背景に脳の活動が関連していることを理解する。				
[授業概要]				
こころの働きと脳の活動の関連を探る方法のひとつとして脳損傷時のこころの働きを観察する方法(神経心理学)がある。本授業では、神経心理学の代表的知見を振り返ることによって、こころの働きの背景に脳の活動が関連していることを理解する。また、脳の構造や機能を調べる方法である各種の脳画像検査の進歩や原理、特徴を学ぶ。さらに最近の基礎あるいは実験脳科学の知見を批判的見地も含めて紹介し、こころの働きと脳の活動との関連について考える。適宜、担当教員が医師として経験した症例を提示し、理解を深める。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間]				
1回目授業で説明する。各回、予習・復習合わせて4時間程度。				
[授業計画]				
1 総論(こころと脳の関係、研究手法の種類と特徴)				
2 生態情報の画像化技術-脳形態イメージング・脳機能イメージング-				
3 脳の進化				
4 脳損傷(側頭葉、後頭葉)によるこころの症状				
5 脳損傷(前頭葉、頭頂葉)によるこころの症状				
6 脳損傷(辺縁系、基底核)によるこころの症状				
7 愛着と養育の脳科学				
8 社会性の脳科学				
9 意思の脳科学				
10 対話の脳科学				
11 創造性と芸術の脳科学				
12 情報技術(IT)と脳科学				
13 まとめ				

科目名	心の脳科学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	池尻 義隆		
[成績評価方法] 毎回の授業前の予習結果(22%)、毎回の授業後の確認テストまたはリアクションペーパー(33%)、学期中のレポート(10%)、学期末試験(35%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中課題は授業内で、レポートは学期内にkissでフィードバックする。 学期末試験は試験終了後に正答と解説をkissにアップロードする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 心理2-1／人間の心と行動を心理学の視点から把握して思考し、調査し、分析する力を身につけている。 成績評価方法: 授業のリアクションペーパー(55%)、レポート(10%)、学期末試験(35%) 学科DP番号／DP内容: 心理3-1／心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法: 授業のリアクションペーパー(85%)、レポート(15%) [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 授業中の態度(100%) 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業中の態度(100%) 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業中の態度(100%) [教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名: 出版社名: ISBN: [参考書(ISBN)] 書籍名:授業で紹介 著者名: 出版社名: ISBN:			